

2023 年度 川崎市障がい者スポーツ指導者協議会 事業報告書

I 全体

- ① 2023 年5月から新型コロナウイルス感染症は感染症法の 5 類に移行されたが、感染は続く状況となった。このような状況下でも障害者スポーツプログラムなどに多くの障害者や会員が参加された。
- ② 川崎市障害者スポーツ協会のご指導のもとで、感染防止対策を講じた結果、幸いにも川崎市障害者スポーツ協会からの要請に基づくボランティア活動において、新型コロナウイルス感染症による感染者は確認されず、2023 年度の事業を終了することができた。

2 会員等の推移

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
会員数※	232 名	198 名	215 名	217 名	217 名	12/31 時点名簿
初級養成講習 会修了者数	27 名	24 名	19 名	28 名	21 名	原則翌年度会 員に追加

※12/31 現在の日本パラスポーツ協会に登録されたデータによる会員数で、その後会費支払い等により会員が増える傾向にある

3 会員の育成と活動の促進

(1)大会及びイベント等への会員派遣の促進

- ① 大会ボランティア参加意向アンケートを 7 月、3 月の年 2 回に加えて、11 月に大会ボランティア参加意向再確認アンケートを実施し、タイムリーな情報発信と会員派遣先のマッチングを行った。なお、大会ボランティアに参加される会員は固定化され、若年層やスポーツ施設勤務の会員の参加者は少ない傾向にある。
- ② 川崎市障害者スポーツ協会と協力して、大会ボランティア参加意向アンケートの結果を共有し、会員へ連絡の徹底を行った。さらに大会実施要領を事前配布することで会員の事前学習につながった。
- ③ 大会等が中止となった場合は、参加予定していた会員への電話やメール等で周知を徹底した。
- ④ 表彰制度に基づき、パラスポーツの発展に貢献した会員を表彰した。
- ⑤ 当協議会設立 20 周年を記念してユニフォームを作製し、有償にて会員へ配布し連帯感の醸成に寄与できた(指導協議会名は名称変更を先取りして「川崎市パラスポーツ指導者協議会」とした)。

(2)広報活動の促進

- ① ホームページを随時更新して、会員が必要な情報等(大会ボランティア参加意向アンケート等)を掲載し、会員の拡充を図った。

② メールアドレスを登録されている会員に対し、日本パラスポーツ協会等からの情報を発信し、情報共有を図った。

③ 協議会ニュースを2回発行した。また、会員以外の障害者関係団体にも協議会ニュースを送付した。

第42号(令和5年7月発行):総会報告、役員名簿、研修報告、表彰制度及び表彰者決定、大会等活動報告、全国障害者スポーツ大会開催のお知らせ、大会ボランティア参加意向アンケート 他

第43号(令和6年3月発行):総会、初級養成講習会、大会等活動報告、研修報告、総会及び大会ボランティア参加意向アンケート 他

④ 会員からの問い合わせについて、きめ細やかに対応した。

(3)他機関連携

① 会員拡充のため、川崎市の依頼により、9月と1月の初級パラスポーツ指導者養成講習会に講師を派遣した。合計21名が受講された。

② 市内スポーツ団体の依頼により、講師や審判等イベント開催に対する協力を実施した(川崎ボッチャクラブ 他)。

4 研修会等の実施

(1)研修会

① 2023年11月26日、講師にお招きして、「はじめの一步を踏み出そう パラスーツの世界へ」をテーマに研修会を開催し、一般参加も含めて13名が受講した。しかし、研修については毎年参加者が少ない状況となっているため、研修内容、開催時期等引き続き検討が必要となった。

(2)交流会

① パラスポーツ指導者の連携強化と親睦を図るための交流会は今年の6月実施予定となった。

5 市内外における会員の派遣先

(1)市内における団体への会員派遣

- ・ 各クラブ(陸上競技、卓球、ボッチャ、フライングディスク等)
- ・ 特別全国障害者スポーツ大会(鹿児島大会)及び強化練習
- ・ 川崎市スポーツ協会からの要請により障害者体験イベント(スポーツフェスタ)
- ・ 川崎市視覚障害者福祉協会からの要請により STT 川崎大会

(2)市外における団体への会員派遣

- ・ 日本ボッチャ協会や日本ユニバーサルボッチャ連盟からの要請によりボッチャ大会
- ・ 関東身体障がい者水泳連盟からの要請により水泳大会
- ・ NPO アキレスインターナショナルジャパンからの要請によりマラソン大会

以 上